

# 創刊第100号皆さまに感謝

今号で第100号を迎えた「しんとうむら議会だより」は、25年。村民の皆さまに議会活動状況の正しい理解と認識を深めていただくため、読みやすく、親しみやすい紙面を目指し、委員の自主編成によりお届けしてきました。創刊号からの足跡を追います。

## 25年の歩み

創刊号 平成9年7月31日発行



創刊号は白黒。写真は、旧役場庁舎3階の議場の様子。題字は、当時の石坂恒雄議長の毛筆。

平成10年  
村のキャッチフレーズ  
「四季元気があったか棟東」  
決定

平成14年  
編集委員会から  
議会広報委員会へ

平成13年  
陸上自衛隊第12師団が  
第12旅団に

第47号  
平成21年7月17日発行



フルカラーになり、題字は、当時の高橋正議長の毛筆でリニューアル。

平成21年  
新庁舎完成  
村政施行50周年

第36号  
平成18年7月21日発行



表紙のみカラーになる。

第11号  
平成12年1月30日発行



2色刷りになる。

第50号  
平成22年4月16日発行



表紙の前面に写真を採用。

臨時号 ※第62号～第63号の間  
平成25年6月21日発行



「しんとうむら議会だより」の題字を変更し、リニューアル。

第59～65号  
シリーズ「匠の技」



裏表紙にシリーズ掲載をスタート。

第65号  
平成26年1月24日発行



「研修レポート」を「学んで生かすべ!研修レポート」に変更。

第73号  
平成28年1月22日発行



「あの質問・陳情はどうなったん?」のコーナーをスタート。

第66号～第89号  
シリーズ  
「発掘!輝く村人(たち)」



裏表紙のシリーズを変更。

第79号  
平成29年7月21日発行



「委員会活動レポート」ページをスタート。

平成29年  
議会広報委員会が  
議会広報常任委員会へ

平成28年8月  
しんとうちゃん  
誕生

令和元年  
村政施行60周年

第90号  
令和2年4月24日発行



新型コロナウイルス感染症にかかわる特別企画スタート。

第82号  
平成30年4月27日発行



第33回町村議会広報全国コンクール奨励賞(編集・デザイン部門賞)受賞。



第46号からの議会だよりはホームページでご覧いただけます



# 元議長に聞いてんべえ! 「あん時の話」



## 議長になったら 議会議務局長をつくる

当時の榛東村議会には、議会議務局長がいなくて、総務課長が兼務していた。他の町村はいたけれど。だから、議長になったら、兼務でなく「議会議務局長をつくる」と思っていた。早川寿助役「改革すべえ」と相談して、課長補佐だった湯浅耕作氏が初めての議会議務局長になった。

## 榛名トンネルの陥没時の音は 今でも忘れられない

新幹線の陥没事故が起こったのは、ちょうど議会中の昼休みだった。陥没していると聞いて、急いで役場から駆けつけた。そのときは直径15m程の大きな穴が、その後もドーン、ドーンと大きな音を立てて崩れていった。その音は今でも覚えている。田んぼと道路の一部まで陥没して、直径約30mにもなった。衝撃的な光景だった。

## 25億円の 補償金獲得時の裏には…

新幹線の漏水対策の補償問題では、2カ月に一度は東京に陳情に行った。行き先は、福田起夫事務所、中曽根康弘事務所、小淵恵三事務所。中選挙区時代だったから3人のところに。こちらは正副議長と委員長で、なかなか前に進まなかったが、最後は、鉄建公団(日本鉄道建設公団)に顔が利くと言われていた、中曽根さんが公団の人に会わせてくれて、話し合いができた。我々は、補償金で25億欲しいと言った。しかし、公団は3億と引かない。それでは、地下水をくみ上げる電気代が出ない。一度公団に持ち帰って考えることになりそうだったが、一筆もらわないと帰れないと粘った。その時、中曽根さんが上着のポケットに入れていた太い万年筆を取り出して、「さあ、サインしろ」と公団の人に渡した。凄みを感じた。公団の人が渋々、署名をして、25億円の補償金が決まった。中央公民館にはこの碑が建っている。

議員は5期務めたが、最初は定数が22人で、次に20人と減らしていった。今はもつと少なく、少数精鋭もいいが、人数が多いとそれだけ意見が出るから、悪いことはない。議員は住民から頼られるのが仕事で、それは国会議員も同じ。地元議員から頼られると嬉しいんじゃないかな。だから、何かの時には頼るといい。そのために、選挙の時に一生懸命応援しているのだから。

陥没事故とは…昭和53年7月20日正午過ぎ、上越新幹線の榛名トンネル掘削工事で、山子田地内の地盤が陥没した事故。

## 旧首相官邸で安倍総理と

まずは、議会だより第100号おめでとうございます。長く続けてこられたのも、広報委員会の努力があったからのこと。お世話になった皆さまに改めて御礼申し上げます。

さて、何から話したら良いか。議長は約9年させてもらって。群馬県の町村議会議長会の会長も6年。全国の会長が約2年。全国の会長の時には、月に平均して4、5回は東京に行っていたかな。民主党政権から自民党政権になって、今は亡き安倍さんが総理に返り咲いた時期だった。会長2年目だったかな。安倍元総理が地方六団体の会長を旧総理官邸に招いてくれて、懇親会をしたことがあった。地下にある和室で。向こうは、総理以外に菅官房長官、その時はまさか総理になるとは思っていなかったけれどなあ。あとは新藤総務大臣。SPとかは部屋の外。安倍総理はざっくりばらん人でお酒も強かった。次の予定もあったのに、2時間。我々の話を聞いてくれた。もちろん、マスクが入って正式に国に要請や協議する場は他であったが、このような懇親会は民主党政権の時にはなかった。だからよく覚えている。

## 防衛庁の時から

あれは、議員になりたての時。議会で、全国で最初に防衛庁を「省」に昇格することを求める意見書を出した。防衛庁には年に3回くらい行っていた。今でも名前は覚えているが、防衛庁の職員には大変お世話になった。当時の防衛庁の屋上にはレストランがあつて。ナイフとフォークのちゃ

んとした。そこでいろいろな話をした。防衛省になっても職員とお付き合いは続いて、議長会の関係で東京に行ったときは、時々会ったりしていたよ。

「オスプレイの決議」のときは、当時の小野寺防衛大臣にも大歓迎され、感謝を伝えられた。榛東村は、相馬原駐屯地があり、自衛隊とは切っても切れない関係だから。今後も関係を大事にしていつてもらいたい。

役場庁舎、中学校の改築、広馬場の農業集落排水と建設委員会の委員長もさせてもらって、完成できたことは、本当に良い思い出。これからもいろいろあると思うが、今後の議会の活躍を祈っている。

地方六団体とは…首長の連合組織である全国知事会、全国市長会、全国町村会の三団体(執行三団体)と議長の連合組織である全国都道府県議会議長会、全国市議会議長会、全国町村議会議長会の三団体(議会三団体)の総称。



## 沖縄での歓迎と報道にたまげた

ちょうど議会で「オスプレイに関する決議」(67号4・5ページ)を可決した直後に、議長に就任した。だもんだから、沖縄県議会の自民党県議団がお礼に来たことがあった。決議文の中に、「沖縄の負担軽減に寄与するならば」といったことも入っていたから。その後、沖縄の現状を確認するために、議員全員で沖縄に視察研修に行った。確か、沖縄防衛局や普天間飛行場のある宜野湾市に行つて、市長から決議は、沖縄の負担軽減の観点からありがたいと歓迎された。さらに沖縄県庁にも案内された。副知事から感謝を言われたことは、今でも覚えている。何より驚いたのは、沖縄に着いてから、我々の行くところに行くと報道が先回りして、ずっと取材されていたこと。バスから降りるところから撮られていたのには、驚いた。その晩か、次々日か、連絡が入って、群馬でも報道されたことを知った。そんなつもりで研修に行つたわけじゃないから、みんな、たまげた



榛東村役場ホームページ  
第67号4・5ページ

ことになったなど言っていたことを思い出す。ただ、それだけ、沖縄の基地負担の問題は奥が深いと感じた。

その後も、群馬県の町村議会議長会の会長をしていたから、東京に行くことも多く、同じように自衛隊の基地のある市町村の議長から声をかけられて、意見交換をしたこともあった。確か、岩国市議会議長とか他にも。情報交換しながら、一緒にやっていきましょうと話をした。

## 副会長は運でなった

全国の町村議会議長会の副会長もさせてもらったが、あれは、本当に「運」だった。東京のホテルで、関東の各県の会長が集まって、順番で関東の中から副会長を出すという会議があった。議長の就任が長い人となったが、一番長い人が「議長の任期もあと数日なので」と断り、次の人も「あと、1カ月で議長が終わりなので」と断り、自分がやることになった。こういうこともあるのだなと、「運」だと思った。全国の議長大会では、当時の総理大臣だった、安倍さんの前であいさつをしたこともあった。周りからよく緊張しないで言えるなど言ってもらったが、今となっては、本当にいい思い出となっている。

今は、コロナのこともあるから、なかなか視察研修に行くことも減っただろうが、よく研修に行つた。広報委員の時もいろいろなところに行つた。当時より議会だよりも良くなった。見やすくなって、わかりやすい。これからはがんばれ。